

電動もみすり器 TR-250 取扱説明書



本器にはモーター駆動のもみすりロールユニットが内蔵されています。試料投入口から指などを入れると、もみすりのローラーに触れ、けがをする恐れがあります。絶対に入れないでください。

● 電動もみすり器TR-250について

本器は、弊社の電気抵抗式小麦水分計「P B-1D3」「SP-1D3」「ライスタ」などの玄米試料を作成するのに最適な電動式のもみすり器です。

もみすりと同時にもみ殻と玄米を分離し、水分測定に必要な玄米のみを採取することができますので、多点の水分測定を必要とするライスセンターやカントリーエレベーター等の農業施設において、水分測定作業の効率向上に役立ちます。

● 仕様

もみすり能力：約20g/60秒

適用水分範囲：12～18%

安全装置：過負荷自動停止装置

電源：AC100V(50/60Hz)

寸法：205(W)×130(D)×130(H)mm

質量：約1.8kg

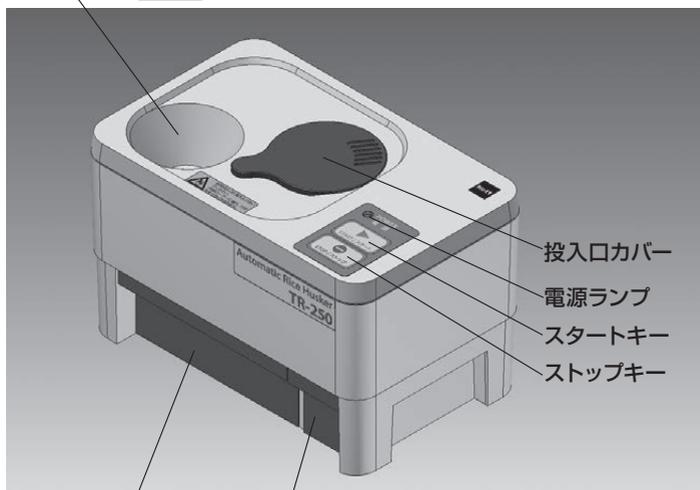
● 各部の名称

《本体》

もみ投入口



* 投入口部分には指などを入れないでください。内部ローラーに触れ、けがをする恐れがあります。



もみ殻受皿

玄米受皿

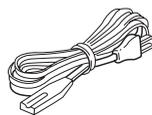
投入口カバー

電源ランプ

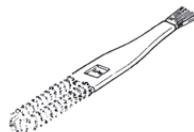
スタートキー

ストップキー

《付属品》



電源コード
POC01



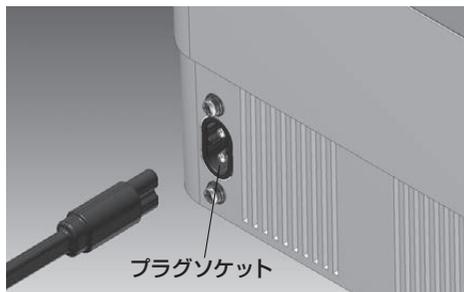
ブラシ



定量スプーン

● もみすり方法

- ① 電源コードのプラグを本体背面のプラグソケットに差し込み、AC100V電源に接続します。このとき電源ランプが点灯します。

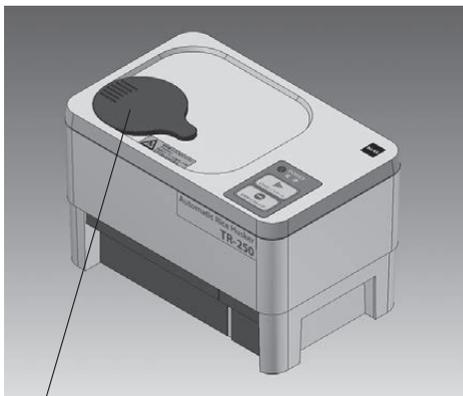


- ② 投入口カバーを開け、付属の定量スプーンでもみを取り、もみ投入口に入れます。

* 一度に投入できるもみの量は 約20g (投入口部分がほぼ一杯となる量)が目安です。無理に大量のもみを入れてしまうと 器械内部でもみが詰まり、器械が動かなくなる場合があります。

- ③ 投入口カバーを閉め、[スタート]キーを押します。

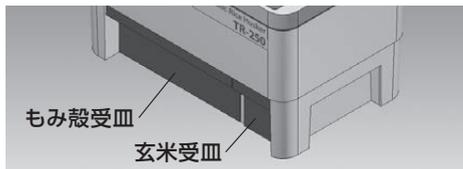
モーターが動き出し、もみすりが始まります。



* もみすり運転中は、投入口カバーを閉めてご使用下さい。カバーを開けておかないと、もみが外に飛び出してくる場合があります。

- ④ もみすり運転中は器械内部で「ゴツ、ゴツ」ともみすり音がしています。

もみ殻や、やせた粒などはもみ殻受け容器に、そして試料となる玄米は玄米受け容器にたまります。

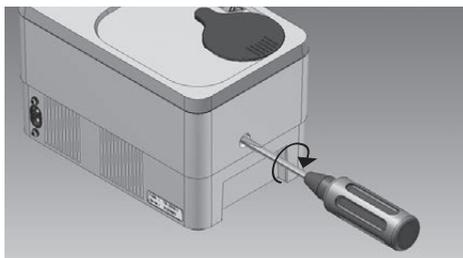


- ⑤ 器械内部にもみがなくなると「ゴツ、ゴツ」音がなくなり、モーターの回転音のみになります。その約15秒後に[ストップ]キーを押して、運転を終了します。

* もみすり音が無くなった直後に[ストップ]キーを押してしまうと、もみが器械内部に残ってしまうことがあります。

* もみすり運転中に本体内部でもみが詰まったり、小石などの異物が入ったりした場合、モーターを自動的に停止させる安全保護機能を装備しています。保護機能が働き、運転が途中で停止した場合には、もう一度[スタート]キーを押すことで復帰運転が可能となります。

それでも動作しない場合には、本体側面にある丸穴部分にマイナスドライバーを入れ、右回り(時計回り)に半回転程度回してから、再度[スタート]キーを押すと復帰運転が可能です。



* 異物の噛み込みが原因の場合には一度本体を分解し、異物を除去する必要があります。

次項「●もみすりロールユニットの交換方法」を参照の上、作業して下さい。

● もみすりロールユニットの交換方法

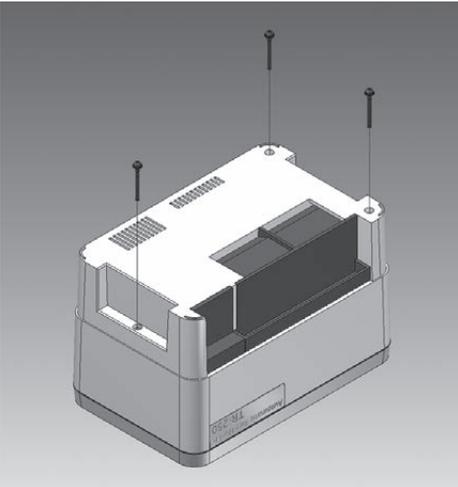
本器の内部には、[もみすりロールユニット]という部品が組み込まれています。

ユニット内部のローラーは、長期間の使用等により、摩耗を生じます。

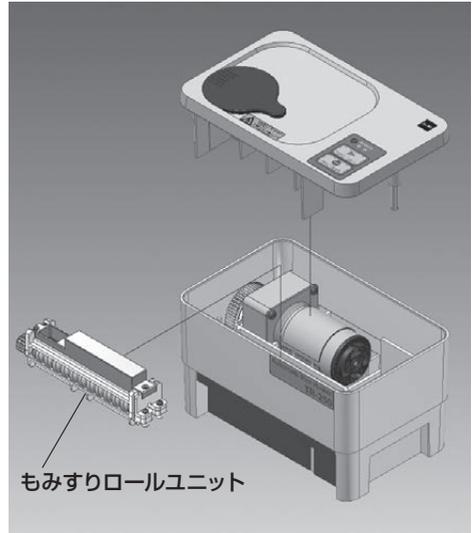
ローラーの摩耗が激しくなると、もみすりの処理能力が低下したり、ローラーに異物が挟まりモーターが動かなくなったりするようなトラブルを引き起こします。

こうした傾向が見られる場合には、以下の方法で[もみすりロールユニット]を交換してください。

- ① 電源プラグを本体から外します。
- ② 本体をさかさまにして、3本のビスを外します。



- ③ 本体を起こし、上ケース部分を垂直に外し、[もみすりロールユニット]を取り出します。
* 器械内部にもみ殻等が残っている場合は、このときに掃除してください。



- ④ 新しい[もみすりロールユニット]を本体内部へ組み込みます。このとき、ロールユニットのギアとモーターギアがしっかり噛み合うことを確認して、組み込んでください。
- ⑤ 外した上ケース部分を再び元に戻し、下ケースにピッタリとはめ込みます。この時、配線を挟まないように注意してください。
- ⑥ 上ケース部分をしっかりと押さえながら本体を逆さまにして3本のネジをしっかりと締めます。
- ⑦ 本体を起こし、再度、本体背面のプラグソケットに電源プラグを差し込み、[スタート]キーを押します。
動作音に異常がないことを確認したら交換作業の完了です。

ご注意

- 本書の内容の一部または全部を無断転載することを固く禁じます。
- 本書の内容につきましては、将来予告なく変更することがあります。
- 本書に掲載されている製品および付属品の外観・画面等は、実際と異なる場合がありますが、操作・機能には影響ありません。
- 本書の内容につきましては、万全を期して作成しておりますが、ご不明点や誤り、記載漏れ等お気づきの点がありましたら、弊社までご連絡ください。
- 本書を運用した結果の影響につきましては、上項に関わらず、責任を負いかねますのでご了承ください。

Kett

株式会社ケツト科学研究所

✉ sales@kett.co.jp 🌐 <http://www.kett.co.jp/>

東京本社 〒143-8507 東京都大田区南馬込1-8-1
☎ 03-3776-1111 📠 03-3772-3001

大阪支店 〒533-0033 大阪市東淀川区東中島4-4-10
☎ 06-6323-4581 📠 06-6323-4585

札幌営業所 〒063-0841 札幌市西区八軒一条西3-1-1
☎ 011-611-9441 📠 011-631-9866

仙台営業所 〒980-0802 仙台市青葉区二日町2-15 二日町鹿島ビル
☎ 022-215-6806 📠 022-215-6809

名古屋営業所 〒450-0002 名古屋市中村区名駅5-6-18 伊原ビル
☎ 052-551-2629 📠 052-561-5677

九州営業所 〒841-0035 佐賀県鳥栖市東町1-1020-2
☎ 0942-84-9011 📠 0942-84-9012